

CMSで サクサク更新 ウェブサイト

ウェブサイト
イントラネット
ホームページ



text : フリージャーナリスト増田"maskin"真樹 (Blog:metamix.com) illust : 小松恵

第11回

Wikiコラボレーションで企画を練り上げよう② Wikiの整形ツールと多彩な機能

ウェブサイト
イントラネット
ホームページ



簡単な指示でレイアウト指定や機能追加

制限がとてもしないWikiは、利用者の思考をすばやくウェブサイトに反映できる。その構造は、個人のアイデアノートやデータベースとしてだけでなく、複数のメンバーによる知的コラボレーションにも適用できる。情報の入力テキストが中心になるが、「Wiki整形ルール」という編集記号をテキスト中に記述すれば、文章の整形だけでなく表組みや投票機能、画像や表計算のファイル添付を、手軽にスピーディーに行える。まさしく手となり足となるWikiの基本ルールを1つずつ紹介しながら、Wikiの動きとその可能性を説明していこう。

Wikiの基本、ページ作成

Wikiはページ中心の情報ツールである。大小にかかわらず、すべての情報はページという単位で扱われる。というよりは、どんな情報も、ページ中心の構造でしっかりと受け止めてしまうのがWikiなのだ。どんなWikiサイトにするかは、ページを作る利用者次第。CMSとしてウェブコンテン

ツを作ることもできるが、単なるPIM(個人情報管理)メモに終わることもある。

ここでのテーマは「企画書作り」である。いかにWikiの利用者個人の発想を拡張&支援し、それをグループによる知的創造活動に役立てられるかという命題がある。企画といえば、「情報の収集」と「発想・構想」が重要だ。そこで、膨大な情報をWikiの中に整理していくことから始めたい。

それにはまずWikiという広大なステージを自由に歩けるようにウォーミングアップをする必要がある。グローバルメニューの「新規」をクリックして、情報を書き込むページを作ってみよう。ただし、Wikiのページ名には、空白を入れることはできないことに注意してほしい。

Wikiの基本、 テキスト整形ルール

WikiではHTMLのタグは使えない代わりに、「Wiki整形のルール」という情報入力のための道具がある。テキストをどう表

示するかを指定するタグのようなもので、これを覚えると、文章の整形やさまざまな情報や機能の入力がスピーディーにできるようになる。覚えるといっても、HTMLのように辞書が必要なほど複雑な記号を暗記する必要はない。整形ルールの記述は1~2回使えば簡単に理解できるはずだ。また、ブラウザのバージョンやOSの種類にも依存しないので、一度覚えるだけで永続的に使い続けることができる。

まず簡単な整形ルールから始めてみよう。すでにテキストの入力はできるようになっていると思うので、そのテキストに「見出し」や「箇条書き」を付けて、文書の構

Wikiルールは 半角で

Wikiで使う整形指示部分は、すべて半角で記述すること。整形のための記号、数字、「COLOR」や「CENTER」などの単語などに全角の文字を使うと整形指示ではなく通常のテキストとして扱われる。

造を整理してみてください。

Wiki整形ルール 「基本要素」

ページのテキストを上手に構成するための必須5ルール。これを覚えればWikiルールの要点を押さえたといっても過言ではない(図1、図2)。チルダは改行する行の行末に、見出し、箇条書き、水平線は行の先頭に書かなければいけないことに注意してほしい。

・改行(空行、「`
`」)

空行を入れると、そこまでが1段落として扱われる。段落内で強制的に改行する場合は改行して行末に「`
`」(チルダ)を入れる。

・見出し(「`*`」「`**`」「`***`」)

最重要ルール。「`*`」(アスタリスク)を行頭に書いて続けてテキストを書くと、そのテキストが見出しになる。「`*`」の個数で見出しのレベルを3つまで表現できる(「`*`」で

大見出し、「`**`」で中見出し、「`***`」で小見出し)。見出しがあるページに「`#contents`」という命令を入れれば、その場所に自動的に目次が作成される。

・箇条書き(「`-`」「`--`」「`---`」)

「`-`」(ハイフン)を行頭に書くと箇条書きの項目になる。「`-`」の個数で箇条書きのレベルを指定して、最高3段階までの入れ子の箇条書きにもできる。

・水平線(「`----`」)

「`----`」のように半角ハイフン4つを行頭に並べるとページに横線を引ける。効果的に配置すればページが見やすくなる。

・注釈(「`((~))`」)

「`((注釈内容))`」のように、単語を半角の丸かっこ2つで挟むと、注釈がページの末尾に作成される。この場合、注釈番号が振られ、注釈内容がページの最下部に配置される

Wiki整形ルール 「簡単な文字装飾」

必要であれば文字に装飾を施すことができる。装飾は、ページに配置されるどの文字に対しても施せる。特に「打ち消し線」は、スクラッチアンドビルドの企画書作りでは多用する(図3、図4)。

・太字(「`~`」)

2つのシングルクオート「`''`」で文字列を挟むとボールドになる。

・斜体(「`'''`」)

3つのシングルクオート「`'''`」で文字列を挟むとイタリックになる。

・打ち消し線(「`%%~%%`」)

2つのパーセント「`%%`」で文字列を挟むと打ち消し線が引かれる。

Wiki整形ルール 「詳細な装飾」

さらに細かい指示として、文字の色やサイズ、行揃えも指定できる(図5、図6)。

図1 Wikiでの記述サンプル

```
#contents
*Wiki編集規則の概要
-箇条書き第1階層その1
-箇条書き第1階層その2((注釈を1つ))

**さまざまなルール
空行(もう1つ注釈)を入れずに
改行もできる。
----
-箇条書き第1階層A
--箇条書き第2階層A
---箇条書き第3階層A
---箇条書き第3階層B
--箇条書き第2階層B
```

図2 改行、見出し、箇条書き、水平線、注釈

```
• Wiki編集規則の概要
  ◦ さまざまなルール
Wiki編集規則の概要
  • 箇条書き第1階層その1
  • 箇条書き第1階層その2*1

さまざまなルール

空行''を入れずに
改行もできる。

• 箇条書き第1階層A
  ◦ 箇条書き第2階層A
    ◦ 箇条書き第3階層A
    ◦ 箇条書き第3階層B
  ◦ 箇条書き第2階層B

*1 注釈を1つ
*2 もう1つ注釈
```

ページに図1のように書くと、こう表示される。見出しは、その名のとおりにコンテンツのタイトルとしての役割を果たす。箇条書きは同列にいくつもの項目を並べるものだ。注釈は通し番号が振られ、ページの末尾に配置される。注釈の上の横線も自動的に引かれる。

図3 Wiki整形ルールでの実際の記述

```
--文字装飾
--文字を"ボールド"にする
--文字を"イタリック"にする
--文字を%%打ち消し%%にする
```

図4 さまざまな文字装飾

```
• 文字装飾
  ◦ 文字をボールドにする
  ◦ 文字をイタリックにする
  ◦ 文字を打ち消しにする
```

文字装飾を図3のように適用したページ。HTMLタグとは異なり、ブラウザやOSの種類に依存しない。また非常にシンプルなので、習得は簡単だろう。

て補強材だけということもある。つまり BracketNameでは、ページのあるなしにかかわらずリンクを作ることができるのだ。

つまり図10でリンクが張られている「階層構造について」だけがWikiサイト内に実在するページ名で、他の名前前のページは存在しない。Wikiでは、リンク先のないページにリンクを指定すると、「？」が表示される。これは“このページを作ってほしい”というWikiからの意思表示であり、クリックすると、その宛て先不明の名前のページを新たに作ることができるのだ。この宛て先不明のリンクは、“今はわからないが将来的に必要”という項目をあらかじめ想定して企画の枠組みを作るのには最適である。

ところで図10では「MaskinWiki」にも「？」が付いている。これはそもそも単なる文字列で、BracketNameは記述していなかったはずだ。実はこの単語は「WikiName」と呼ばれ、何も記述しなくても自動的に「リンク候補」となるのである。「1文字目が大文字」「2文字目以降が任意の英数字」「大文字」「任意の英数字」という組み合わせのアルファベットで記述された単語は自動的にWikiNameとなり、その名前前のページがあればリンクになり、なければ「？」マークが付いて、ページの作成を促される。たとえば「WikiWiki」「Mo Blog」「WikiWay」などはWikiNameになるが、「Metamix」(3文字目以降に大文字

がない)や「METAMiX」(2文字目が小文字ではない)はならない。

WikiNameは、Wikiコンテンツを拡張させるには有効なのだが、日本語を中心に扱う場合には有効に使えないのが残念だ。

スクラッチアンドビルド

整形ルールやBracketNameといった基本的な構造の下で、Wikiにはさらにたくさんの機能や画期的な整形ルールが用意されている。ここでいくつか紹介しておこう。

ファイルの添付と参照

意外かもしれないが、PukiWikiは極めて柔軟なファイル管理機能を備えている。ページに複数のファイルを添付することができ、JPGなどの画像ファイルならばページ中に表示できるし、その他のファイルでもダウンロードボタンを表示できる。

ページの最下部には添付されているファイルのリストが表示され、グローバルメニューの「添付」「全ページの添付ファイル一覧」をクリックすれば、そのWikiサイトのすべてのページに添付されているファイルを見ることができる。その場でファイルを開いたり削除したりもできる。

この機能は、複数ユーザーによるファ

イル共有に絶大な効果を発揮する。どんなブラウザからでも、ログインも必要がないファイル共有サービスを簡単に作れるからだ。しかも、面倒なディレクトリー管理や容量管理などは必要なく、いつでも必要なページに必要なファイルをいくつでも添付できるのだ(図11、図12)。

投票機能の設置

ウェブサイトで自分の意見を共有し始めると、他の人の意見も収集したくなる。しかし投票機能は、普通のウェブサイトではCGIやプラグインをインストールしないと使えないのが現状だ。だが、Wikiならコマンドの記述で、すぐにいくつでも投票コーナーを設置できるのだ(図13、図14)。

Wiki以外へのリンク

Wiki以外のページへのリンクなど、Wikiのページ名以外でリンクを作りたい場合には、[[名前:URL]]とすればいい。

```
[[METAMiX!:http://www.metamix.com/]]
表示テキスト      リンク先
```

URLが表示されても気にならない場合は、「http://」「https://」「ftp://」「news://」「mailto:」などで始まるURLを直接書けば自動的にリンクになる。

図9 Wiki整形ルールでの実際の記述

```
*主なテーマ
METAMiX!のMaskinWikiが取り上げるテーマです。

-[[ウェブサービス / Blog]]
-[[テクノロジーと音楽著作権]]
-[[RFIDと組み込みOS]]
-[[階層構造について]]
```

図10 作られたリンクは1つだけ

主なテーマ

METAMiX!のMaskinWiki?が取り上げるテーマです。

- ウェブサービス / Blog?
- テクノロジーと音楽著作権?
- RFIDと組み込みOS?
- 階層構造について

4つBracketNameを作ったのに1つしかリンクが張られず、後は「？」が付いただけだ。

コメント機能の設置

Wikiの限りない自由度は、多くの閲覧ユーザーにとって、しばしばとまどいをもたらす。実際、この連載向けに作り始めた筆者のWiki(URLは文末を参照)では「書き込んでもいいですか?」という質問が寄せられたほどだ。しかしページにコメントを付けられるフォームを用意すれば多少は敷居が低くなるかもしれない。ページに「#comment」と書いてみよう。Wikiではこの1行だけでそのページにコメント入力フォームが設置される(図15)。

おもしろいことに、コメントで入力した名前には、必ず「?」マークが現れる。Wikiのシステムが自動的に「自己紹介をしてください」と促しているのである。つまり、コメントを挿入した後、名前の「?」マークをクリックして、「自分のページ」を作ること

が習わしになっているのだ。この慣習に利用者が従えば、Wikiサイトはコミュニティーサイトにだって成長するだろう。

カレンダーでスケジュール管理

恐ろしいことに、Wikiでは、整形コマンド「#calendar_read」でカレンダーも作れる。「#calendar_edit」とすると日付と連動したページが作成でき、まるでPIMシステムのように本当にスケジュール管理ができてしまうのである(図16)。

Wikiの歩き方

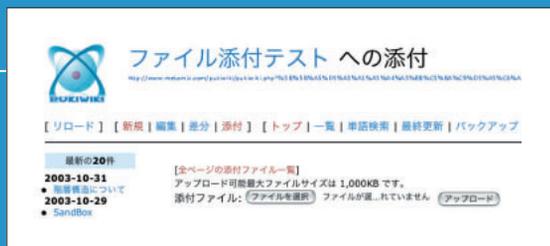
驚くほどさまざまな機能や構造を持つWiki。ここまでくると、どう閲覧していった

らいいのかわからなくなりそうなので、ここでWikiサイトの利用の仕方について軽くおさらいしておく。

ブラウザの基本は、前述したとおり、最近登録・変更されたページが並び左側の「最新ページ20件」と、ページ内のリンクになる。グローバルメニューから「単語検索」で直接検索するのもいいだろう。

Wikiらしいブラウザの仕方としては、ページ最下部にある「Link:ページ名~」がある(図17)。これは、Wikiサイト内でどのページからこのページにジャンプしたかを表すものだ。ページ名の右側にある「4d」や「28d」というのは追加もしくは編集されてからの経過時間を示す。たとえば「4d」というのは「4日前にリンクされた」ということを表す。また、Wikiのページは頻りに編集される可能性があるので、「Last-

図11 ファイルの添付



グローバルメニューの「添付」をクリックすると、閲覧中のページにファイルを添付できる。ファイルはサーバーのPukiWiki専用のディレクトリーにアップロードされる。アップロードできるファイルの最大ファイルサイズは1000KB(約1MB)だ。

図12 添付されたファイル



JPG画像とExcelのファイルをアップロードした。ページ中に「#re(ファイル名またはURL)」を記述すれば、画像がページ中に配置される。また、ページの最下部に「添付ファイル:ファイル名」という表示が見えるだろうか。クリックすれば開けるし、「削除」ボタンを押せばファイルを消去できる。

図13 Wiki整形ルールで投票機能を設置

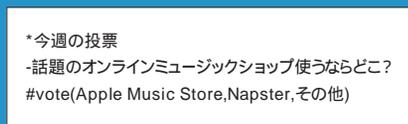


図14 投票機能が簡単に作れた!



これだけの記述で、一瞬にして投票ブロックが作成できる。当然クリックすればカウントされる。投票結果はそのページの中に「#vote(Apple[1] Music Store[0], Napster[0],その他[0])」のようにコマンドの形で保存されていく。

modified」にもチェックが必要だろう。

もっと詳しくページの閲覧動向を知りたいければ、ページ中に「#counter」と記述すれば、簡単なアクセス解析を行うことも可能だ(図18)。

作者優先の構造

さて、今回はまずは各自が情報を入力し始めるということで、整形ルールをおさらいしながら、Wikiのふるまいをまんべんなく紹介した。非常に幅広く奥が深いWikiの機能を、筆者自身が驚きながら筆を(キーボードを)進めてきた。わかったのは、Wikiは、利用者のふるまいによって、どのようなサイトにでも成長していくものだということ。文中でも少し触れたが、ブックマーク集にもなるし、メモ書きのデー

タベースにも、スケジューラーにも、コミュニティサイトにもなり得るのだ。

しかしながら、忘れてはならないのは、CMSは万能ではないということだ。それぞれのツールやシステムには個性があり、すべてのコラボレーションワークや知的創造活動に適用できるわけではない。またWikiは、知らない人にとってはわかりにくい構造を持っている。そもそもページコンテンツの見やすさを向上させる要素を持ち合わせていないので、普通のウェブページの感覚で見に来ると、おもしろい見た目だとは感じないだろう。

Wikiの中心はあくまでもWikiを知り、Wikiページを作成した作者であり、それを閲覧する一見さんとの間には、明白な境界線があるのである。

次回は、参加者の領域を拡張し、個人からチームでのWiki利用についてぐっくと深く掘り進んでいくつもりだ。

なお、例によってこの連載と連動したWikiサイトを用意してある。すでに最新のPukiWiki 1.4を適用してあるので、是非利用してほしい。

URL <http://www.metamix.com/pukiwiki/>

最新版PukiWiki 1.4 リリース

11月4日に、PukiWikiの最新バージョンである1.4が正式にリリースされた。細かい記述の整合性アップやマイナーバグフィックスが中心だ。また、任意のページに対してユーザー認証を行えるようになったり、単語検索の結果ページで検索後を強調表示できるようになったりと、かゆいところに手が届くようになった。また、携帯電話端末で閲覧が可能になったほか、blogなどでおなじみのTrackBackに対応するなど、地味ながら画期的なバージョンアップとなっている。

図15 簡単にコメント機能を設置できる



名前とコメントを入力して「コメントの挿入」を押せば、フォーム上のようにコメントが追記される。

図16 カレンダー設置もコマンド1つだ



今月のカレンダーを表示(本日は11/5)。日付をクリックすると、このページ(maskin)の下に「maskin/20031105」というカレンダーと連動したページが作成される。

図17 ページを参照しているURL



そのページを参照しているページが表示されている。

図18 簡単なアクセスカウンターも追加できる



「#counter」を追加すると、アクセスカウンターが設置される。左から「トータルアクセス(Counter)」、「本日のアクセス(today)」、「昨日のアクセス(yesterday)」で、追加した時点からカウントされていく。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp